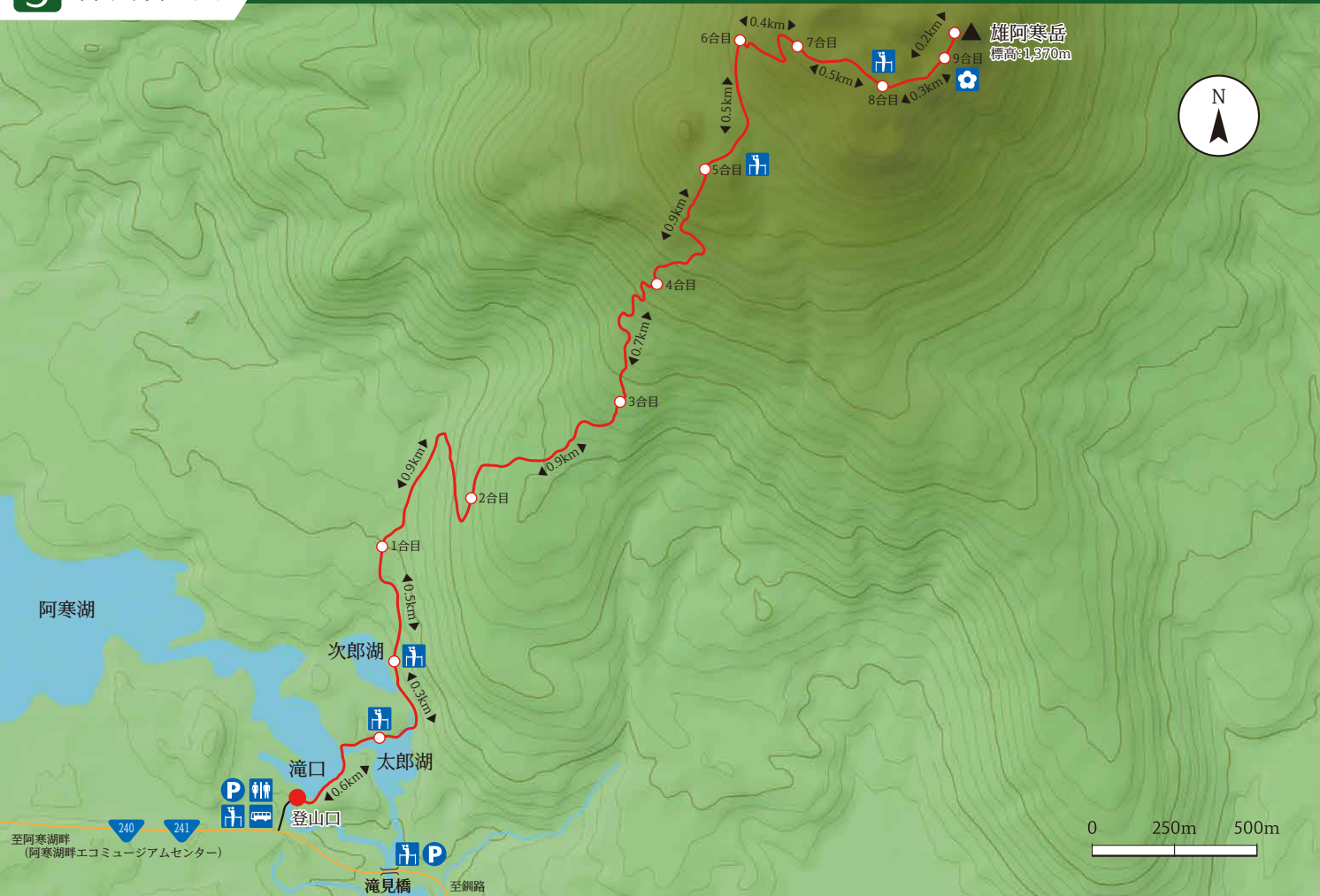




雄阿寒岳プロフィール

雄阿寒岳（1,370m）は、阿寒湖の東部にあり、千島火山帯の西南端に位置する活火山で、阿寒カルデラの中央火口丘として約1万年前にその原形ができたと言われています。山頂からは、阿寒カルデラやカルデラ内の湖沼を一望できます。この山の魅力的な特徴は、標高によって育つ植物の層がはっきりと見られることです。標高1,000m付近までは日本でも数少ない原生林である針広混交林、1,000mからはハイマツ帯、そして山頂付近では様々な高山植物を見ることができます。雄阿寒岳の登山道は1つだけで、雌阿寒岳に比べると難易度が高く、登山経験がある方や、体力に自信のある方向けのコースとなっています。

周辺の植物



ミネズオウ
(開花時期 6月～8月)



イワウメ
(開花時期 6月～8月)



ガンコウラン
(開花時期 6月～7月)



ミネザクラ
(開花時期 6月～7月)



ツバメオモト
(開花時期 5月～6月)



エゾオオサクラソウ
(開花時期 5月～6月)

3 雄阿寒岳登山道



雄阿寒岳の登山道は長く、急勾配が続く厳しいコースですが、その充実感があります。登山口は国道240号線から入ってすぐの滝口にあります。そそり立つ雄阿寒岳を望む湖岸からスタートし、途中右手に太郎湖、やや進むと左手下に次郎湖があり、ここを過ぎるとトドマツを中心とした森に入ります。つづら折れの道を進み高度が増すと木々の向こうに阿寒湖が少し見えてきます。その先の急勾配を越えると5合目に出ますが、この辺りからはハイマツ帯となり展望が楽しめます。8合目には旧日本軍の気象観測所跡地があり、そこから20分ほどで山頂に到着します。

火山であるため山肌は大小の溶岩が積み重なってできていて、空洞や穴が空いている場所もありますので注意が必要です。

距離	[片道] 約6.7km	時間	[登り] 3時間20分 [下り] 2時間20分
----	-------------	----	----------------------------



グレード 3 1日かりの本格的登山とロングハイク
天候に注意! 装備は万全ですか?

アクセス

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからの行き方

●雄阿寒岳登山口

[自動車の場合]

阿寒湖畔エコミュージアムセンター→国道240号線を釧路方面(5分)→滝口

駐車場 雄阿寒岳登山口駐車場・・・約10台

滝見橋横駐車場・・・・・・乗用車20台、大型2台

[阿寒バス 阿寒線の場合]

阿寒湖温泉→雄阿寒岳登山口(滝口)

注意事項

■ヒグマの出没が多い場所です。登山前に阿寒湖畔エコミュージアムセンターでヒグマの出没情報を確認し、十分に注意して向かいましょう。

■この登山道は自然公園法の特別保護地区内にあります。樹木の枝を折ることや植物を持ち帰ることは禁じられています。

見どころ 滝口

阿寒湖温泉から国道240号線を約3.0km釧路市方面に向かった場所にある庭園のような景観を楽しむことができる、阿寒湖を代表する景勝地です。雄阿寒岳の登山口になっています。



また、ここは阿寒湖の東南端にあたる入り江に接した地点で、阿寒湖で唯一の流出河口となっており、ここから流れ出した水が太郎湖の水と合流して阿寒川へ流れ出ている様子が滝のようであることから、このあたりは「滝口」と呼ばれるようになったと言われています。春にはエゾムラサキツツジ、夏にはハクサンシャクナゲ、秋には紅葉が映え、観光遊覧船のコースにもなっています。初冬の頃にはオオハクチョウも飛来し、自然豊かな観光スポットとなっています。

見どころ 太郎湖



滝口の対岸の水門から流れ出る川沿いに雄阿寒岳登山道を約0.6km進むと右手に「太郎湖」があります。太郎湖は阿寒湖の湖水が流れ込んでおり、コイやアメマスなどの淡水魚が棲んでいます。

今から約6千年前の雄阿寒岳噴火により阿寒湖が現在の形になった際にできたと考えられています。

見どころ 次郎湖

次郎湖は太郎湖から雄阿寒岳登山道を0.3km進むと左下に見えてきます。次郎湖は太郎湖に比べ周辺がうっそうとした針広混交林に囲まれているため、とても静かです。また、こ



こは流出河川などがなく、地下で太郎湖や阿寒湖とつながっていると考えられています。滝口から次郎湖付近にかけて6月中旬から7月下旬にはゴゼンタチバナやエゾオオサクラソウ、ツバメオモト、オオバナノエンレイソウ、ミヤマハンショウヅルなどの花が見られます。